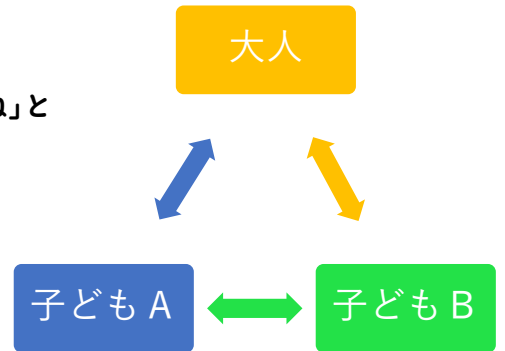


# なゆたん通信

※前回16号の続きとなります。

褒める実践を続けていると ある児童は「先生も上手やな」「先生すごいね」と職員を褒めるようになりました。また「〇〇くん、絵を描くのが上手だね」とお友達のこと褒めるようになった児童もいました。このように“褒める”も**伝播**していくのだろうなと感じました。今後も褒める実践を続けていこうと思います。



褒めるという漢字の意味はご存じでしょうか？

「褒める（ほめる・ホウ）」という字は、「衣」という字を上下に分けその間に「保つ」という字を書きます。「保つ」という字は大人と子どもが寄り添う様子を描いています。にんべんが大人を表し「口」の下に「木」と書く部分は赤ちゃんがおむつをしている様子。そこから「保つ」という字は、大人が子どもをおぶうまたは抱いている姿を意味するといえます。

それを「衣」という字で挟み込んだ「褒める」という字は懐に子どもを抱いてふくらむ様子を表していて、そこから「ひろい、ゆるやか」という意味をもつようになりました。

「褒める」という文字から見えてくる、子育ての形。

それは子供の存在をまるごと認め、広くゆったりとした心で子どもを抱きしめている様子なのです。私も「褒」という漢字のように、広く大きな心を持って子どもの良いところをたくさん見つけられる人になりたいと思います。



以上で『褒める』シリーズは  
終了となります

